

JENESYS2016 公益財団法人日韓文化交流基金 企画競争公募事業

第23回「日韓高校生交流キャンプ」開催報告

当協会および韓日経済協会では、『第23回日韓高校生交流キャンプ』を7月29日～8月3日の5泊6日間、宮城県南三陸町・仙台市にて開催しました。

両協会では日韓青少年交流事業として2004年1月から日韓高校生交流キャンプを始めて、今回で23回目、延べ2,138人の交流実績となりました。なお、キャンプ参加者はキャンプ後も交流を続け、2006年から自主的にOB/OG会を結成して、更なる交流と理解を深め合う活動を続けています。

このキャンプは、将来の両国経済界を担うであろう日韓の高校生を対象にしています。

2011年東日本大震災による被災地である南三陸で開催した「第23回日韓高校生交流キャンプ」では、両国高校生が10人前後の日韓混成チームに分かれ、被災地の復興現場を見学したり、日本経済の現場体験を行い、その体験学習を基に、防災・地域貢献などの内容を取り入れた日韓両国の新たな未来につながる新復興計画案や新まちおこし案を企画・発表しました。

今回は日本側から31校40名、韓国側から23校40名、合わせて54校80名の日韓高校生が参加しました。なお、キャンプOB/OGの高校生・大学生も運営ボランティアとして参加しました。

- 会 場： 宮城県南三陸町「南三陸ホテル観洋、南三陸プラザ」
宮城県仙台市「アークホテル仙台青葉通り」
- 期 間： 2016年7月29日(金)～8月3日(水)
- 参 加 者： 高校生80名(日本側40名、韓国側40名)
- 事業形態： JENESYS2016 [公益財団法人日韓文化交流基金 企画競争公募事業]
- 主 催： 一般社団法人日韓経済協会、社団法人韓日経済協会
- 後 援： 外務省、国土交通省、宮城県、駐仙台大韓民国総領事館、韓国産業通商資源部
- 協 力： 南三陸町、一般社団法人南三陸町観光協会、南三陸町ホテル観洋、
アークホテル仙台青葉通り、アサヒビール株式会社、アサヒ飲料株式会社、
アジアナ航空株式会社、株式会社 JTB コープレートセールス
- 交流プログラム開発・運営： IVITT 研究所株式会社

第23回「日韓高校生交流キャンプ」プログラム

時間	7.29(金)	7.30(土)	7.31(日)	8.01(月)	8.02(火)	8.03(水)
07:00		起床&朝食	起床&朝食	起床&朝食	起床&朝食	起床&朝食
08:00		語り部バス &「復興計画」 説明会	南三陸プラザへ移動	南三陸プラザへ移動	チェックアウト &松島へ移動	お別れ
09:00	韓国学生出国 仁川空港 ≫仙台空港 (OZ152)		事業発表準備1	事業発表のリハーサル		
10:00		事業発表会		日本文化体験 松島観光船	日本学生解散 韓国学生移動 &出国手続き	
11:00			昼食			昼食
12:00	日韓学生 会場へ移動	養殖漁業体験 &昼食(外食) &日本経済 現場体験	事業発表準備2	昼食	昼食	韓国学生帰国 仙台空港 ≫仁川空港 (OZ151)
13:00				表彰及び修了式 JKSFF/KJSFF紹介 写真スライドショー	昼食	
14:00	仙台市内へ移動		仙台市内 自由観光			
15:00					日韓学生 会場集合	縁日会場へ移動
16:00	夕食		夕食			
17:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
18:00	オリエンテーシ ョン	夕食	夕食 [@南三陸プラザ]	日本の縁日 BBQと キャンプファイヤー	夕食	友達に一言！ &アンケート
19:00	語り部による 震災学習	事業案の決定	事業発表準備3		キャンプ会場へ移動	
20:00	友達作り &チーム活動	花火大会鑑賞		キャンプ会場へ移動		
21:00		ゴールデンベル			就寝	就寝
22:00	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝



して、また被災された方々の集いの場・教育の場として機能していたホテルの様子などについてお話を伺いました。

その後、「友達づくり」プログラムでは、チーム毎に自己紹介を行ったり、用意してきた写真

初日、南三陸町内の会場に参加者が集まり、「オリエンテーション」で6日間のキャンプがスタートしました。続いて行われた「語り部による震災学習」では、南三陸ホテル観洋 阿部憲子 女将より、被災直後の街の様子や避難所と



を見せ合ったりしながら、日本語・韓国語・英語またはボディーランゲージ交じりでお互いに何とか意思疎通を図ろうとする姿が見られました。



二日目、午前中は、参加者全員が「語り部バス」に乗車し、2011年東日本大震災によって被災した現場をバスでまわりながら、震災前の写真と震災後の現場を見比べたり、震災の経験者より当時の経験談を直接話してもらったりしました。また、「復興計画説明会」では、南三陸町 高橋一清 産業振興課長より、これからの街の復興計画について説明を聞き

ました。このような現場見学や経験者からのお話を聞くことで自然災害の怖さやその備えについて日韓の高校生が一緒に勉強し、考える機会を持ちました。その後、波伝谷漁港へ移動し、「養殖漁業体験」を行いました。養殖いかだや水揚げの様子を実地見学したり、その場で水揚げされたホヤやホタテを試食するなど、南三陸町の水産資源の豊かさや養殖漁業のしくみ、漁師さんの技を実感する良い機会になりました。



午後は、「日本経済現場体験」として、チームの事業カテゴリ別に、[まちおこし・観光]チームは志津川湾夏まつり会場にて屋台のお手伝いやポータルセンターにて南三陸町観光協会に来ている台湾からのインターン生のイベントのお手伝いを、[サービス・おもてなし]チームは南三陸ホテル観洋にて配膳や窓拭きなどホテルのお仕事の体験を、[介護・



福祉]チームは介護福祉施設のつつじ苑や慈恵園にて入居者の方々とのコミュニケーション・交流を通じた現場体験を、[農業]チームは南三陸ツーリズムネットの藍の畑にて畑仕事のお手伝いや南三陸農工房にて農家のお仕事のお手伝いを行いました。各施設では、該当する事業に関する講話や職員インタビュー、また現場での仕事を直接体験してみることで、

新たな事業を企画するための様々な情報を収集しました。

夕食後は、ホテルのロビーなどに集まり、志津川湾夏まつりの「花火大会」を鑑賞しました。花火大会鑑賞の後は、日韓でペアを組んで挑む、勝ち抜きクイズ大会の「ゴールデンベル」を行いました。チーム以外の参加者との交流を深める機会にもなり、大いに盛り上がりました。



三日目、終日、南三陸プラザの会場にて事業発表会の準備作業を行いました。事業戦略を練り、翌日の事業発表会に向けてPPT資料や広報物の作成、コマーシャル動画の撮影と編集、小物づくり等、熱気を帯びた協働作業が続きました。チームで一つの結果を出すべくアイデア集約や意見調整等、限られた時間を精一杯活用しながら討議と作業に没頭していました。

四日目、いよいよ「事業発表会」の日です。持ち時間は各チーム15分、夜通し準備したビジネス企画を発表し、質疑応答も活発に行われました。審査員として、日韓経済協会 是永和夫 専務理事、韓日経済協会 李鐘允 常勤副会長、東レ株式会社 小泉慎一 顧問、駐仙台大韓民国総領事館 鄭大守 副総領事、眞露株式会社 楊仁集 代表取締役社長、南三陸町 高橋一清 産業振興課長の6名の方々が、各チームの真面目で一生懸命な発表に報いるべく真剣に審査を行いました。



審査の結果、**最優秀賞**は「Kind go」と題した老人ホームを利用している高齢者一人一人を行きたい場所に連れていく福祉サービスを企画したチームに決まりました。

優秀賞は、「南三陸夏祭り」と題した南三陸町のことをよく知らない人々に南三陸町の名産物を「見て！食べて！知って！」もらい、南三陸へ実際に来てもらうことを目的としたイベントを企画したチームと、「Silver Ocean」と題した介護・福祉専門コンサルタント事業を企画したチームが受賞しました。また、**審査員特別賞**、**MOST IMPRESSIVE 賞**、**BEST**

PERFORMANCE 賞、人気賞、チームワーク賞がそれぞれ表彰され、最後に参加者全員にキャンプ修了証が渡されました。

表彰式の後には、全員で神割崎キャンプ場へ移動し、キャンプ主催側と運営スタッフ、キャンプのOB・OG ボランティアが準備した「**日本の縁日**」会場で、BBQ、カレーライス、かき氷、綿あめを食べながら、ヨーヨーつり、スーパーボールすくい、キャンプファイヤー、手持ち花火などを楽しみました。



五日目、南三陸町から松島へ移動し、「**日本の文化体験**」として、日本三景の一つである松島を日韓の高校生と一緒に観光船に乗って周遊しました。

午後は、仙台市へ移動し、チーム別に仙台市内を自由に観光した後、ビュッフェ形式の

夕食を兼ねた「**Finale Festival**」に参加しました。韓国の韓服（ハンボク）および日本の浴衣を各々相手国の学生が着る「**両国伝統衣装ファッションショー**」をはじめ、参加者による歌や踊りなど多彩な特技が次々と披露され、盛り上がりも最高潮に達し、キャンプ最終日前夜を満喫していました。



最終日、朝食の後、いよいよ両国学生お別れの時が訪れました。両国参加者共に分かれ難く、抱き合って涙を流しながら、再会の日を約束し合う光景が多く見受けられました。こうして5泊6日間のキャンプ全日程を無事に終了し、参加者は皆それぞれの思い出を胸に家路につきました。

以上